



## 第58回「おかねの作文」コンクール

### 秀 作

# 心を具現化するもの

佐賀県・佐賀大学教育学部附属中学校 2年 江口 琉那

私は年に2回、企業からお金を受け取っている。働いているわけではないので、これはもちろん給料ではない。この私の収入は配当金というのだ。

去年私は、株式投資を始めた。経済は循環しており、それは日本を元気にすることができる日本への推し活なのだと理解した。その後も、お年玉やおこづかいを貯めて、今も株を少しずつ増やしている。株を選ぶのはとても楽しく、中学生の私が日本の経済を、ほんの少しだけでも応援できていると思うと、とても誇らしい気持ちになる。

ある日、私の証券口座の預かり金にお金が入っていた。その時はあまりよく考えず、母が何かしたのかなという程度に思っていたが、その後、私宛に配当金計算書と書いた手紙が届いた。私は、好きなジュースや、食べ物などで株を選んでいたため、配当金が何なのかその時は、よく理解できていなかった。そこで、配当金とは何かを調べた。本を読んでいると、「事業が成功して利益が出たら、利益の一部を投資家たちに分配してくれるんだ。分配してくれる利益のことを配当と言うよ。」と書いてあった<sup>1)</sup>。私は、配当金とは、企業を応援するために投資をし、それによって利益が出たことへの、「ありがとう」なのだと思った。

私は、配当金の使い道を考えた。株を選ぶことが楽しい私は、新しい株の購入資金に使いたいと思ったし、友達と遊びに行く時に使いたいとも思った。しかし、この「ありがとう」はもっと大事に使いたいと思った。配当金のことを調べた本に、「立派に育った収穫物をみんなで分け合う。そして、みんなで幸せになりますよう、という考え方が『投資』なんだ。」と書いてあった<sup>2)</sup>。この文章を読んだ時に私は、以前ランドセルの寄付をしたことを思い出した。その時、相手のことを想い行動することは、自分の幸せに繋がるのだと実感した。そこで、企業から貰った「ありがとう」を社会貢献に使うことをひらめいた。私は、配当金を寄付すると決めた。

寄付で、どんな支援ができるのかを調べた。ユニセフのホームページを見ると、

支援は、教育から予防接種、家庭用の水、衛生用品まで様々であった<sup>3)</sup>。そして、募金の申し込みページに記載されていた一つの使い道が目に入った。そこには、「例えば、毎月3,000円のご協力が1年間で・命を救う栄養治療食687袋分に」と書いてあった<sup>4)</sup>。衝撃だった。私にとっての3,000円は、遊びに行けばすぐに無くなってしまうとても心細い金額だ。それが、使い方が変われば命を救えるものに変わる。これまで感じていた3,000円という金額の重みが変わった瞬間だった。

私の今の配当金では、栄養治療食には足りなかったが、同時にお金の重みを知り、さらに寄付をする意思が固まった。

企業を応援することで、配当金という「ありがとう」を受け取り、それを今度は、世界にいる誰かを救うことへ繋げる。これは、「ありがとう」のバトンみたいだと思った。私が渡せるバトンはとても小さいけれど、これが未来まで繋がってくれたら嬉しいなと思った。

今の時代、欲しい物の購入や、友だちと出かけて遊ぶこと以外にも、ゲームへの課金や、動画を見るための課金など、お金の使い道はたくさんある。私が日本への推し活だと感じた株式投資は、企業を応援し、日本の経済を元気にする使い方だった。そして今回、配当金を貰ったことで、初めて自分のお金で寄付という社会貢献にお金を使った。

色々なお金の使い方を知っていくうちに、お金というのは、持ち主の心を具現化するものだと感じた。それは、持ち主の気持ちによって柔軟に何にでも変化をするからだ。必要なときには道具に変化し、お腹が空けば食べ物に変わる、人を助けたいと願えば、命を助けられるものになる。そして残念だが、持ち主の心が歪んでしまうと、人を傷つけるものにも変わってしまう。お金と心は繋がっている。お金を正しく使うには、金融リテラシーが必要だが、同時に正しい心を持つことも重要だと感じた。

(注)

1) 2) 八木陽子監修『今から身につける「投資の心得」～10歳から知っておきたいお金の育て方～』  
えほんの杜 2022年3月

3) 公益財団法人日本ユニセフ協会「ご寄付による支援例」

URL [https://www.unicef.or.jp/cooperate/coop\\_support.html](https://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_support.html)  
閲覧日 2025年8月10日

4) 公益財団法人日本ユニセフ協会「ユニセフ募金のお申し込み」

URL <https://www.unicef.or.jp/bof/bo.html>  
閲覧日 2025年8月10日